

◆経済倶楽部講演会第4332回（5月29日）

新型コロナウイルス蔓延の中東域内政治に 与える影響

千葉大学法政経済学部教授
酒井啓子

- *歴史的に感染症と関係が深い中東
- *シリア派繋がりでイランからサウジに拡散か
- *コロナ対策に温度差
- *原油価格の急落が経済を直撃
- *非産油国の反政府運動にもコロナ禍
- *レバノンには3月にデフォルト宣言
- *イランを取り巻く緊張関係のゆくえ
- *ソライマーニ司令官爆殺の影響
- *コロナ禍で湾岸諸国は対立緩和モードに
- *サウジ、イスラエルの親密関係に変化なし



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は酒井啓子先生においでいただきました。改めてご紹介の必要もないかとは思いますが、簡単に経歴をご紹介させていただきます。1959年のお生まれで、東京大学教養学部を卒業後、アジア経済研究所に入られ、イラクとカイロに駐在経験がございます。その後、東京外国語大学で教授をされ、現在は千葉大学にお勤めでございます。

それでは本日はコロナ蔓延下の中東情勢につきまして先生から最新のお話をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

歴史的に感染症と関係が深い中東

酒井 よろしくお願いたします。ただいま

ご紹介にあずかりました千葉大学の酒井でございます。毎年こちらでは中東情勢についてお話をさせていただく機会をいただいておりますが、このお話をいただきましたときは今年の初めだったでしょうか、まだコロナの感染が流行していない時期でございました。ただ、コロナ以前から、ちょうど昨年秋ぐらいから今年の初めにかけて中東では大きな事件が次々に起こっております。今回の講演もそういったお話をさせていただけうと思っております。このようなコロナ騒ぎで中東もご多分に漏れず大きな被害を受けております。

冒頭にちょっと申し上げておきたいのですが、中東でコロナの感染状況というのは新聞にはそれほど大きく取り上げられてはおりま